

ASEANPEDIA

～ ASEANまるわかり ～
2020

Association of Southeast Asian Nations

ASEAN



国際機関 日本アセアンセンター
(東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター)

〒105-0004 東京都港区新橋6丁目17番19号 新御成門ビル1F
Tel: 03-5402-8118 Fax: 03-5402-8003 E-mail: toiawase_ga@asean.or.jp
開館時間: 9時30分～17時30分 (土・日・祝日 休館)
www.asean.or.jp



ASEANPEDIA WEB

2020 年 1 月発行



国際機関 日本アセアンセンター
(東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター)



ASEANとは、東南アジア地域の国々が加盟する地域協力機構です。1967年8月に「ASEAN設立宣言（通称：バンコク宣言）」に基づき、地域の平和と安定や経済成長の促進を目的として設立されました。当初の加盟国は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5カ国でしたが、その後、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマーおよびカンボジアが順次加盟し、現在は10カ国で構成されています。

ASEANの最高意思決定機関は、首脳会議「ASEANサミット」です。また、ASEANでは分野別の閣僚会議や委員会も開かれ、一年を通しさまざまな分野において、政策協議が行われています。ASEAN事務局はインドネシアのジャカルタに設置されており、機構内の会議・委員会等の調整・効率化を担い、さまざまな事業を実施しています。

ASEANの目的

1 域内における経済成長、社会・文化的発展の促進

2 域内における政治・経済的安定の確保

3 域内諸問題に関する協力

ASEAN

アセアン
日本とともに —— アジアの平和と繁栄を築くパートナー



CONTENTS 目次



01 ASEANとは

03 ASEANクロニクル
～ひと目でわかるASEANと日本のあゆみ～05 パートナーシップ・ヒストリー
～日本とASEAN諸国の交流史～07 「日本ASEAN関係」の今を知る
～統計で読み解く現代事情～09 ASEAN加盟国の素顔
～個性あふれる10カ国～15 Topic 1
ぜひ訪れたいASEANの絶景
～文化と歴史の息吹が宿る世界遺産～17 Topic 2
おいしいASEAN
～豊かな風土が育む多彩な食文化～19 Topic 3
ASEANのトラディショナルスタイル
～ASEANの華麗なる民族衣装～21 Your Gateway to ASEAN
国際機関 日本アセアンセンターについて
～ASEANと日本との架け橋に～

ASEANクロニクル

～ひと目でわかるASEANと日本のあゆみ～

1967年の設立宣言以来、東南アジア地域の平和と安定を目指し、発展を続けてきたASEAN。
日本とは、最初の協力関係が始まった1973年から現在まで、深く多面的な交流が続いています。



2017
●ASEAN設立
50周年

2015
●第27回ASEAN首脳
会議にて、ASEAN
共同体ビジョン2025
を採択
●ASEAN共同体の
設立

2011
●東ティモールが
ASEANに加盟
申請

2011
●駐ASEAN日本政府代表
部開設
●日・ASEAN首脳会議に
おいて、日・ASEAN関係
をさらに強化することを
謳ったバリ宣言・行動計
画を採択

2008
●ASEAN憲章発効

2008
●日・ASEAN包括的
経済連携 (AJCEP)
協定が発効

2007
●ASEAN共同体の創設
年を2015年に5年前倒
しする
●ASEAN憲章調印
●ASEAN経済共同体
(AEC)創設に向けた
ブループリントを発表

2005
●第1回東アジア首脳
会議開催

2004
●日本が東南アジア
友好協力条約
(TAC)に加盟

2003
●第9回ASEAN首脳会議
にて、第二ASEAN協和
宣言を採択し、2020年
までのASEAN共同体
創設を提唱

2003
●日・ASEAN交流年
●東京でASEAN諸国の首脳が域
外で初めて一堂に会した日・
ASEAN特別首脳会議が開
催。「日・ASEAN東京宣言」お
よび「日・ASEAN行動計画」
を採択し、日・ASEAN協力の
展望について、具体的な施策を
とらった内容が合意される

2002
●幅広い分野において経済
連携を強化することによ
り、日・ASEAN関係のさら
なる深化を目指す「日・
ASEAN包括的経済連携
構想」を日本が提唱

1999
●カンボジア王国加盟
「ASEAN10」の実現

1997
●ラオス人民
民主共和国加盟
●ミャンマー
連邦加盟

1997
●第1回日・ASEAN
首脳会議開催
●第1回ASEAN+3
(日本・中国・韓国)
首脳会議開催

1995
●ベトナム社会主義
共和国加盟

1992
●第4回ASEAN公式首脳
会議にて、域内の関税撤
廃により自由貿易を実現
させるASEAN自由貿易地
域 (AFTA) の創設を採択

1994
●日本の提案で、アジア太
平洋における政治・安全
保障分野に関する対話の
場であるASEAN地域
フォーラム (ARF)が初め
て開催

1984
●ブルネイ・
ダルサラーム国加盟

1977
●第1回日・ASEANフォーラム
が開催され両地域の関係が
公式なものとなる。8月には
日・ASEAN首脳会議を実施
●福田赳夫総理 (当時)が訪問
先のマニラでASEAN地域重
視の外交政策「福田ドクト
リン」を表明

1973
●「日・ASEAN合成
ゴムフォーラム」が
設置され、日本と
ASEANは対話を
開始

1967
●東南アジア諸国連合
(ASEAN) 設立



原加盟国5カ国の外相がバンコクに集まり、ASEAN設立宣言 (バンコク宣言) に署名
写真提供: ASEAN事務局

●第1回ASEAN首脳会議開催
→東南アジア友好協力条約 (TAC)
とASEAN協和宣言を採択
*東南アジア友好協力条約 (TAC):
国連憲章に基づき、域内諸国間
において平和的な関係を維持・管理
するための国際的合意
*ASEAN協和宣言: 政治、安全保障、
経済分野等、域内協力の基本原則
→ASEAN事務局の設置を採択



1970's
アメリカ軍のベトナム撤退、
インドシナ半島における共産化
の動き、中国の台頭、ベトナム
によるカンボジア侵攻にともない、
ASEANは政治的な結束を強め、
安全保障問題にも積極的
に関与するよう
になりました。

1980's
冷戦の終結、カンボジア和平
など地域の情勢も安定してき
ました。ASEAN地域は国際社会
からの支援、外国企業の進出な
どに後押しされ、「世界の成長
センター」といわれるほどの
目覚ましい経済発展を
遂げていきます。



マニラを訪問する福田赳夫総理 (当時)
写真提供: 毎日新聞社/時事通信フォト

1990's
ASEANはASEAN拡大外相会議
(PMC) やアジア欧州会議 (ASEM)
の開催など、地域外の国や地域との関係を
強化し、対話の場を増やしていきます。
また、ASEAN域内においては「ASEAN自由
貿易地域 (AFTA)」の設立に合意、経済分野
での協力の重要性が増していきます。90年代
後半にはベトナム、ラオス、ミャンマーおよび
カンボジアが加わり、設立以来の目標で
あった「ASEAN10」が実現し、東南
アジア地域の統合体としての
役割を強めます。



日・ASEAN 特別首脳会議
写真提供: 内閣広報室



2010's
ASEAN共同体が設立。現在、
ASEANは共同体を強固にするための
さまざまな取り組みを推進しています。
特にASEAN経済共同体は、域内で「ヒト・
モノ・カネ」の行き来が自由になることで
さらなる経済の活性化が予測されており、
ASEAN地域は経済成長が著しく、
潜在力が高い地域として、日本のみ
ならず世界中から注目を集め
ています。

2000's
1997年に起きたアジア通貨危機
を乗り越え、ASEANは域内の連携を
深め、さらなる発展を目指します。「ASEAN
政治・安全保障共同体 (APSC)」、「ASEAN経済
共同体 (AEC) および「ASEAN社会・文化共同体
(ASCC)」の3つの共同体形成を通じたASEAN共
同体を2015年までに実現することを提唱します。
また、他の地域との関係もさらに強化し、2005年
からは、1997年より開催している「ASEAN+3
(日本・中国・韓国) 首脳会議」に加え、
オーストラリア、ニュージーランド、インドを
含めた東アジア首脳会議 (EAS)
を開催します。

パートナーシップ・ヒストリー

～ 日本とASEAN諸国の交流史 ～

かけがえのないパートナーシップを築いている日本とASEAN諸国。それは、さまざまな出来事と長い年月を経て育まれてきたものです。ここに、その交流の歴史をひも解いてみましょう。

有史以前

伝説の時代

日本と東南アジアの民話に共通性

歴史上、日本と東南アジア諸国との間の交流の記録があらわれるのは8世紀からです。有史以前から何らかの交流があったのではないかと考えられています。特に近年では日本と東南アジア諸国との神話や民話の共通性が指摘されており、「羽衣伝説」や、海と山との兄弟関係について語られる「海幸山幸物語」などは、東南アジアで伝えられている民話との間に共通性があるといわれています。こうしたことから日本と東南アジア諸国との間には、伝説の時代から交流があったことが想像できます。

8世紀ごろ

遣唐使の時代

インドシナ半島や 安南(ベトナム)と接点が?

日本からの留学生が中国大陸に渡る遣唐使の時代、遣唐使たちを乗せた船が東シナ海の暴風雨に巻き込まれて南シナ海まで流され、ついにはインドシナ半島に漂着したといわれています。また、唐の玄宗皇帝に登用された遣唐使の阿倍仲麻呂は、安南(現在のベトナム中部地方)で現代の知事のような職務に任じられたことがあったという記録があります。

15世紀～
16世紀ごろ

琉球王国による中継貿易の時代

琉球(沖縄)と 東南アジア諸国との貿易が活発に

15世紀に入ると、琉球(沖縄)が中心になって東南アジア諸国との間で活発な貿易が行われます。貿易船はマラッカ(マレーシア)、シャム(タイ)、ルソン(フィリピン)、ジャワ(インドネシア)などから象牙や香辛料、染料を仕入れ、明(中国)と朝貢貿易*を行っていました。また日本や朝鮮半島にも来航して、交易品を転売していたようです。琉球の首都・首里(那覇)に建てられた首里城は、東南アジア諸国や中国からもたらされた交易品や文化が融合した独自の様式が取り入れられたことで知られています。琉球が中国と東南アジア諸国との間を中継してつないだ貿易ルートは、後の時代の朱印船貿易にもつながっていきます。

*朝貢貿易：当時明が行っていた近隣諸国との貿易形態。明に対して貢ぎ物をささげ、それに対して明は物品を与えていた。

1960年代～
現在

新たな交流の時代

東南アジア諸国独立、 新たな交流へ



福田赳夫総理(当時)のマニラにおけるスピーチ(1977年8月)
写真提供：内閣広報室

このような国交回復後、日本の経済技術協力や企業の積極的な進出などにより、日本と東南アジア諸国との間で再び交流が深まりました。その一方で日本の急速な経済進出は両者間で一部摩擦を生み出しました。

こうした中、1977年、福田赳夫総理(当時)は訪問先のフィリピン・マニラにて、(1)日本は軍事大国にならない、(2)ASEAN諸国と「心と心の触れあひ」関係を構築する、(3)日本とASEAN諸国とは対等なパートナーである、という3つのASEAN外交原則「福田ドクトリン」を提唱しました。以後、ASEAN重視の外交原則は後の政権にも引き継がれ、日本とASEAN諸国は友好関係を維持・強化していきます。

現在、日本とASEAN諸国間では貿易、投資、観光などの経済活動、政府開発援助(ODA)事業などにみられる技術協力プロジェクトや、人材育成事業の実施や留学生の受け入れ・派遣などにみられる人物交流など、さまざまな分野での交流が政府・民間レベルで活発になっています。また、日本とASEAN各国との二国間での経済連携協定の締結・発効に加え、2008年12月には、ASEAN

地域全体との幅広い経済関係を強化する「日・ASEAN包括的経済連携(AJCEP)協定」も発効しました。さらに、ASEAN地域と日本を含む広範な地域の平和、安全および経済の発展についても、さまざまな国際的な枠組みで話し合い、協力関係を築いています。

日本とASEAN諸国の間では「共に歩み共に進むコミュニティ」という目標に向けて、これまでの交流の歴史をはるかに超える多様性と厚みをもった交流が行われています。

19世紀後半
～1950年代

交流の再開と太平洋戦争の時代

不幸な歴史を乗り越え国交回復へ

日本の鎖国によって途絶えていた東南アジア諸国との交流が復活するのは、明治維新によって開国がなされてからのことです。貿易の中継地であったシンガポールを中心に、日本から雑貨、薬、呉服などを扱う行商人たちの進出などが始まりました。また、多くの日本人が仕事や投資先を求め、東南アジア諸国へ移り住みました。

その後、日本は1937年に始まった日中戦争の行き詰まりを打開し、石油などの資源を確保するため、南方に進出する南進政策を開始。東南アジア地域を占領していきましました。

1945年の日本敗戦後、1951年のサンフランシスコ講和条約により日本は連合国との関係を復活させ、国際社会へ復帰。これを機に日本は東南アジア諸国との国交回復も果たしていきましました。賠償の支払いや無償経済協力も開始され、その後の東南アジア諸国への本格的な経済技術協力へとつながっていきます。日本の経済技術協力は日本企業の進出のきっかけになるとともに、東南アジア諸国の経済発展に寄与しました。

16世紀～
17世紀ごろ

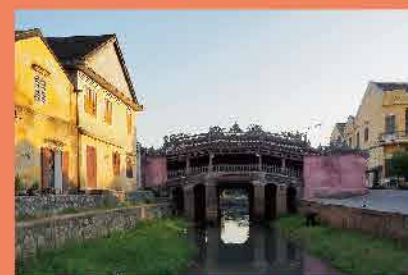
朱印船貿易と日本町の時代

朱印船貿易により 東南アジア各地で暮らす日本人

戦国時代後期にはポルトガル商人を介した南蛮貿易が始まりました。ポルトガル人やスペイン人たちは、世界有数の産出国であった日本で銀を手に入れて、東南アジア各地との貿易に用いました。やがて、直接貿易にたずさわる日本人商人があらわれ、こうした商人の貿易船を保護し、貿易を奨励したのが豊臣秀吉でした。

その後、日本を統一した徳川幕府は、こうした貿易船に朱印状を発行し、朱印船貿易が始まります。日本の銀や硫黄と、現地の生糸や絹織物などの交換を目的として、東南アジアの国々と貿易を行うようになりました。朱印船貿易によってマニラ(フィリピン)やアユタヤ(タイ)には1,000人を超える日本人が住み、東南アジア全域に日本町・日本人居住地が誕生しました。この時代、東南アジアで暮らした日本人は、1万人にのぼるといわれています。

1633年に徳川幕府による鎖国政策が開始されると、こうした朱印船貿易は急速に減少し、日本町も姿を消していきます。



かつて日本町があったベトナム・ホイアンに残る「日本橋」



タイ・アユタヤにある日本人町跡

■16世紀ごろの東南アジアと朱印船の航路



「日本ASEAN関係」の今を知る

～ 統計で読み解く現代事情 ～

日本とASEAN諸国はお互いに、さまざまな分野におけるパートナーとして、なくてはならない存在です。

ここでは、《貿易》《投資》《観光・人的交流》の面から、その関係性をみていきましょう。



貿易

貿易構造の変化により深まる相互依存関係

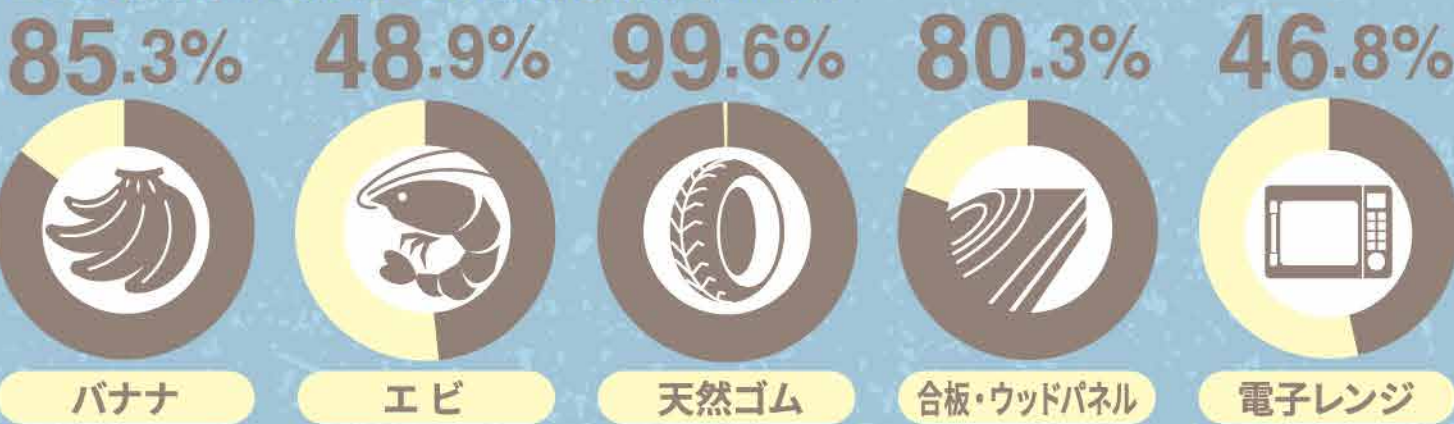
日本とASEAN諸国は重要なビジネス・パートナーです。日本のASEAN諸国との貿易額(モノの輸出+輸入)は、25兆円以上(2018年)にもものぼり、貿易総額の約15%を占めています。一方、ASEAN諸国にとっても日本は中国、EU、米国に次ぐ貿易相手国で、貿易総額の約8%(2018年)を占めています。

かつては日本がASEAN諸国から原材料や農水産品を輸入し、製品

をASEAN諸国へ輸出するという構造でしたが、その傾向は変わってきました。1980年に輸入額の10%にも満たなかった日本のASEAN諸国からの製品輸入比率は、2018年には電気機器、木製品、衣類、服飾品などを中心に、約67%を占めるまでになっており、貿易構造が高度化しています。また、輸出+輸入双方において、モノの貿易だけでなく、サービス貿易も年々増加しています。

私たちの生活に欠かせないものが、ASEAN諸国から多く輸入されています

■ 全輸入額を100%とした時のASEAN諸国が占める割合(2018年)



出典：財務省貿易統計



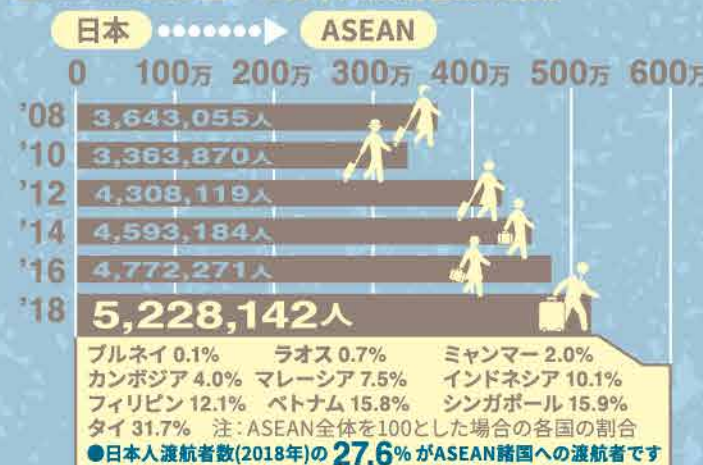
観光・人的交流

増加する日本とASEAN諸国間における人の往来

ASEAN諸国にとって、観光は各国経済において鍵となる産業分野です。豊富な観光資源の存在、そして時差が短いこともあり、2018年には年間500万人以上の日本人が、ASEAN諸国を訪れました。一方、ASEAN諸国では、急速な経済成長と中間層の増加、LCC(格安航空会社)の市場参入やライフスタイルの変化等による日本観光への人気の高まりを背景に、日本への訪問者は急増し、2018年には10年前の約5倍の約340万人にのぼっています。日本とASEAN諸国間における人の往来は年々活発化しています。

また、日本におけるASEAN諸国からの留学生も増加傾向にあります。ASEAN諸国では、日本のアニメやJ-POPに代表されるポップカルチャーの人氣が高く、それをきっかけに日本に関心をもち、日本語を勉強したり日本へ留学したりする若者が増えています。

■ ASEAN10カ国への日本人渡航者数の推移



出典：ASEAN各国政府観光局・統計局



投資

優れた製造拠点として、巨大な消費市場として

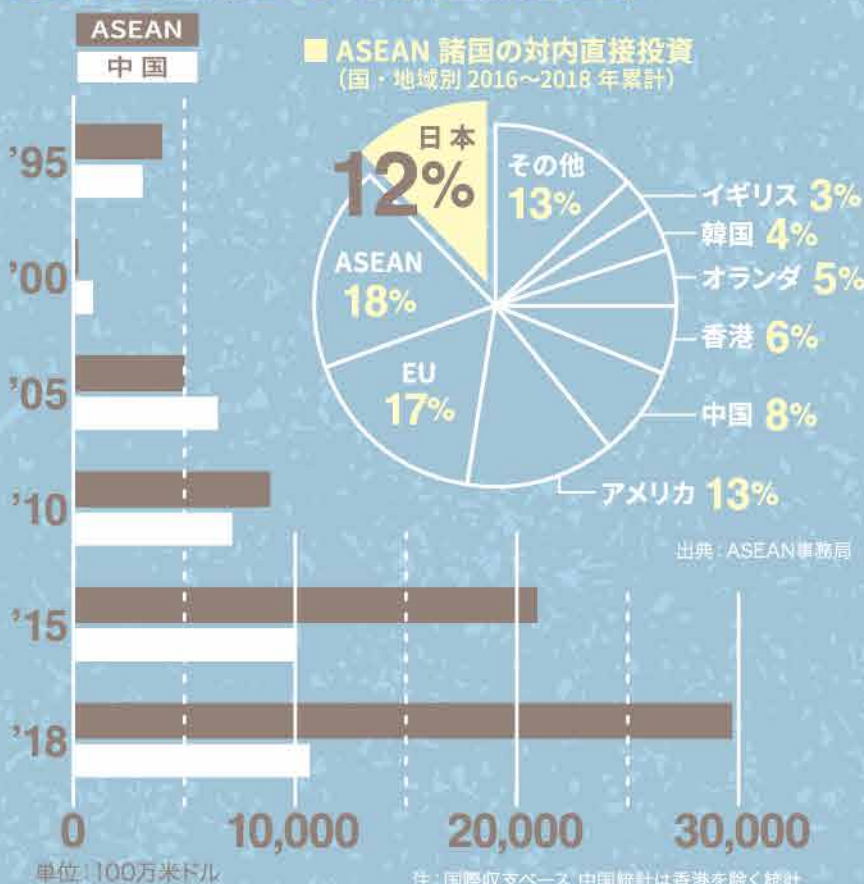
多くの日本企業にとって、ASEAN諸国はアメリカや中国と並ぶ主要な投資先です。日本とASEAN諸国は、二国間の経済連携協定(EPA)や投資協定を締結するとともに、2008年には日本とASEAN全体との間で締結した日・ASEAN包括的経済連携(AJCEP)協定も発効し、貿易・投資のさらなる活性化に向けた制度上の整備が進められてきました。2018年には、約13,000社の日本企業がASEAN諸国に事業を展開し、ASEAN諸国に暮らす日本人は

20万人を超えています。

また、2015年末には、ASEAN経済共同体(AEC)が発足し、ASEAN域内における「ヒト・モノ・カネ」の行き来が自由になることにより、さらなる経済の活性化が見込まれています。ASEAN諸国は従来の製造拠点としてだけでなく、6億5千万人以上の人口を擁する巨大な消費市場としても、日本企業から注目を集めています。

日本からASEAN諸国への直接投資は、近年加速しています

■ 日本からASEANと中国への対外直接投資の推移



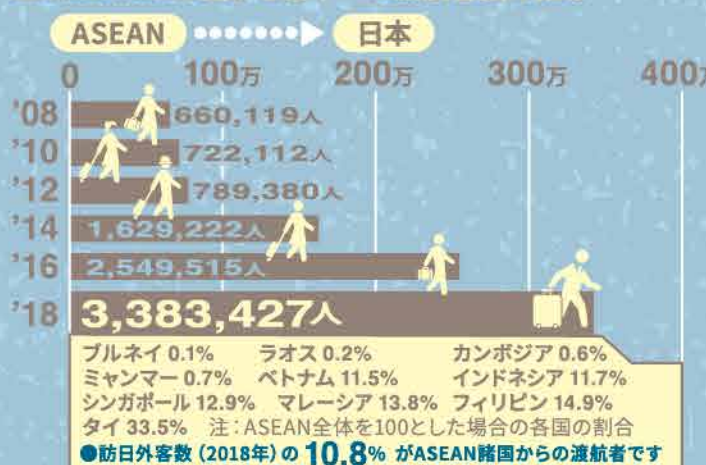
日本の ODA が ASEAN 諸国の経済発展・産業の高度化に貢献！



日本のインドネシアへの円借款により開通した同国初の地下鉄「ジャカルタ都市高速鉄道(MRT南北線)」(2019年3月開通)
写真提供：JICA

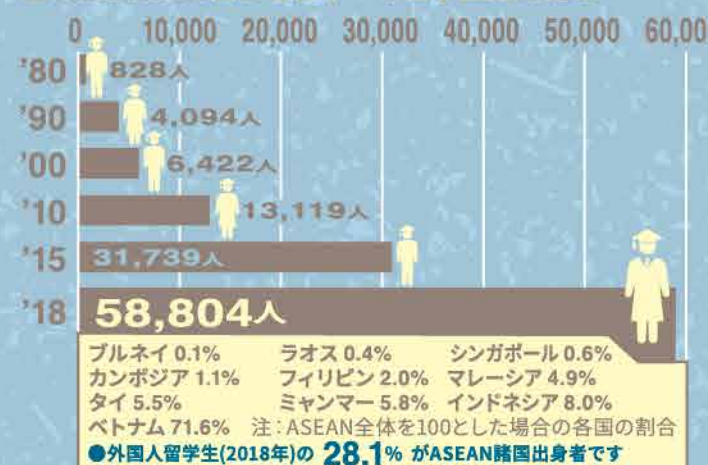
日本はASEAN諸国の国づくりに、政府開発援助(ODA)等を通じて協力を行ってきました。また、日本は経済成長を通じた貧困削減を重視し、教育や保健医療といった基礎生活分野のほかに、経済インフラ整備、法制度整備をはじめとした投資環境整備、人材・民間セクターの育成、技術移転の促進といった分野でも、ASEAN諸国に対して支援を行ってきました。日本のODAは、ASEAN諸国のビジネス環境の整備に寄与し、日本をはじめとした海外からASEAN諸国への企業進出を後押ししています。

■ ASEAN10カ国から日本への渡航者数の推移



出典：日本政府観光局

■ ASEAN10カ国から日本への留学生数の推移

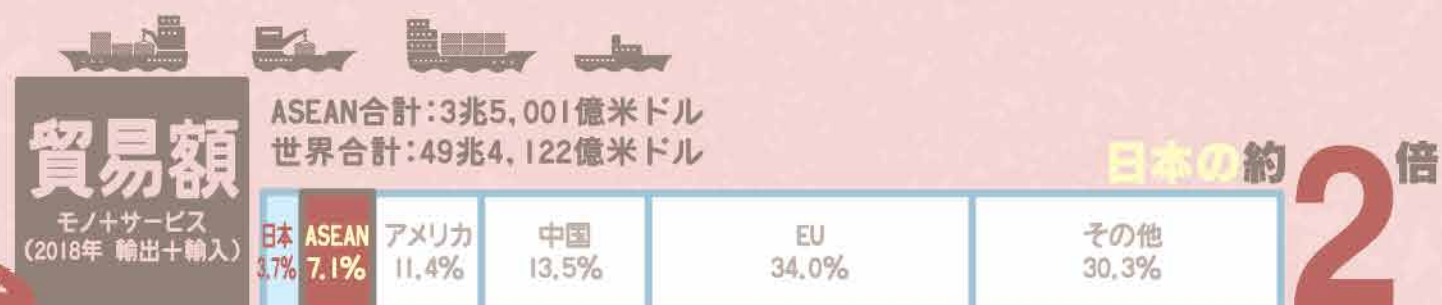
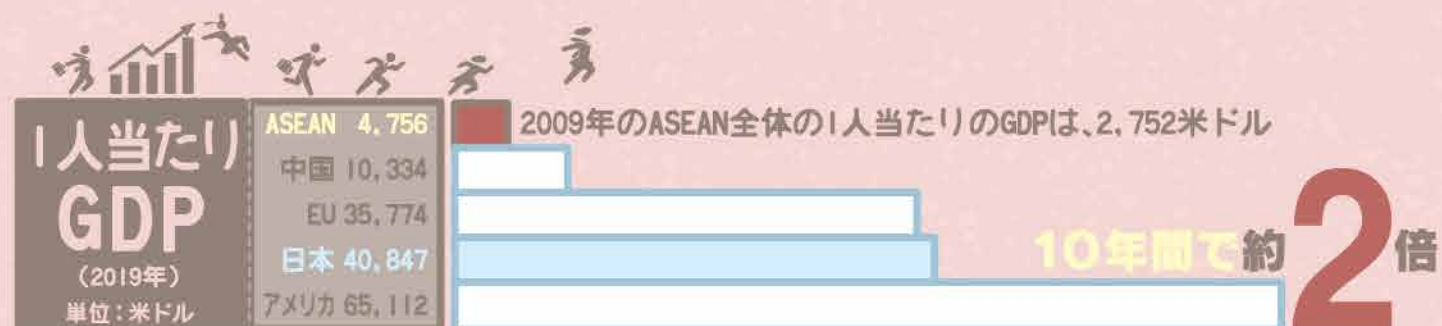
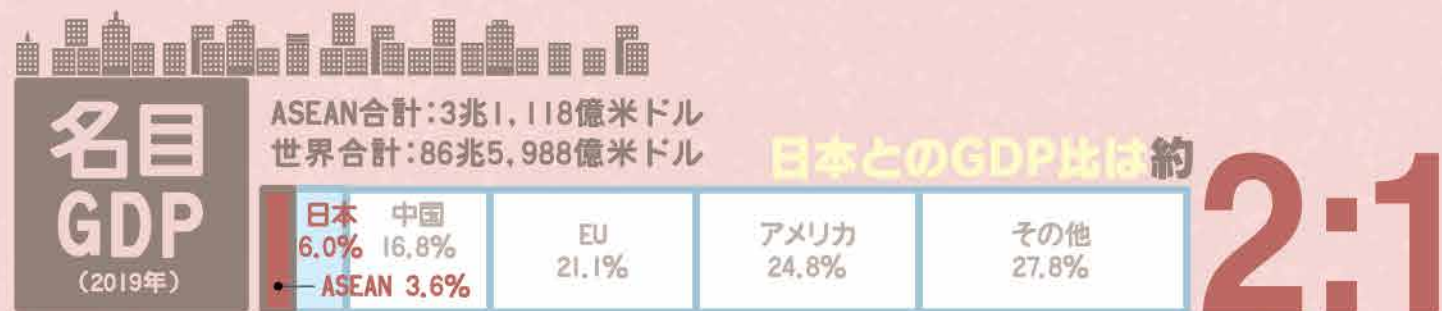
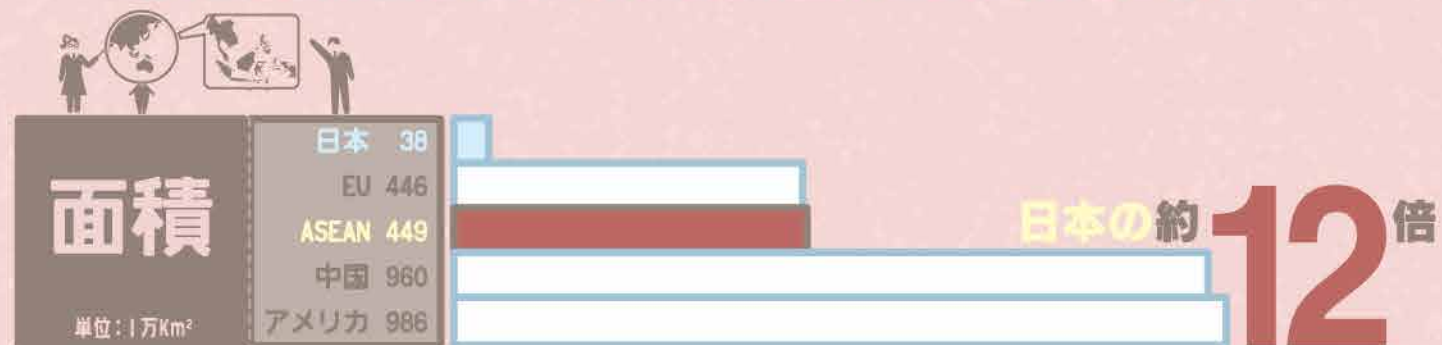


注：高等教育機関在籍者数

出典：日本学生支援機構

ASEAN加盟国の素顔 ～ 個性あふれる10カ国 ～

ひと口にASEANといっても、加盟10カ国は国土の広さ、人口の規模、政治体制、経済体制、言語など、どれをとっても大きく異なります。また同じ国の中でさえ、民族や宗教が複雑にからみあい、異なる文化圏が共存している国もあります。そんな個性あふれるASEANの国々をご紹介します。



注：面積、人口、金額は推定値。1人当たりGDPは名目GDPを人口で除して、日本アセアンセンターにて試算。中国統計は香港およびマカオを含む。
出典：各国政府統計局（面積）、IMF（人口、GDP）、UNCTAD（貿易額）

ブルネイ・ダルサラーム国

Brunei Darussalam

面積：5,765km²
人口：約45万人(2019年推定値)
首都：バンダルスリプガワン
政治体制：立憲君主制
主な言語：マレー語、英語
主な宗教：イスラム教
通貨：ブルネイ・ドル



写真提供：ブルネイ政府観光局
オマール・アリ・サイフディン・モスク（左・右）

資源豊かな平和の国

ボルネオ島の北西海岸に位置し、国土は三重県と同程度の大きさ。国民の約80%が敬虔なイスラム教徒です。1984年にイギリスから独立して以来、国王による統治で安定した内政を維持してきました。石油や天然ガスなどの豊かな地下資源に恵まれ、国民はその恩恵を受け医療費や教育費はすべて無料、個人に対する所得税もなく、高い生活水準を維持しています。現在では、これまで国家を支えてきたエネ

ルギー産業に依存しすぎることをのいないよう、経済の多角化を進めています。

ブルネイで生産された天然ガスの大部分は日本に輸出され、ブルネイにとって、日本は長年にわたる最大の貿易相手国であり、日本にとってもブルネイは重要なエネルギー供給国です。両国間では、技術協力、教育・文化面でも活発な交流が行われています。

67%
ブルネイの天然ガスの約7割は日本に輸出。日本が全世界から輸入する天然ガスの約5%を占めます(2018年)。

参考情報：ブルネイ財務経済省経済計画開発局・統計局

カンボジア王国

Kingdom of Cambodia

面積：181,035km²
人口：約1,649万人(2019年推定値)
首都：プノンペン
政治体制：立憲君主制
主な言語：クメール語
主な宗教：仏教
通貨：リエル



アンコール・トム



アプサラダンス

世界遺産アンコール遺跡をもつ森林の国

インドシナ半島の中央に位置し、母なる大河メコン川と東南アジア最大のトンレサップ湖の恵みによる豊かな自然をもつ国です。「森林の国」ともいわれ、北部国境地帯の大部分が森林におおわれています。国民の約98%が仏教徒です。過去には長い戦乱・内戦に苦しみました。1991年に平和を実現、1993年の総選挙によって新政府を樹立しました。主要な産業は、肥沃な国土に恵まれた農業と世界遺産アンコール遺跡に代表される観光です。また、

ASEAN10カ国のほぼ中央に位置し、大メコン経済圏を形成するタイ、ベトナム、ラオスに隣接することに加え、メコン川を擁し、外洋にも面するといった好立地が、ASEAN地域の要衝として注目を浴びています。

日本との関係は古く、朱印船貿易時代には日本町がありました。現在も日本は、アンコール遺跡の保存修復活動をはじめ、官民双方のさまざまなレベルで協力・交流を行っています。

8 倍
日本に渡航するカンボジア人
2008年：2,701人
2018年：21,696人

2018年のカンボジアから日本への渡航者は、10年前の約8倍。ASEAN諸国の中でも突出した伸び率です。

参考情報：日本政府観光局

インドネシア共和国

Republic of Indonesia



面積 : 1,916,862km²
人口 : 約2億6,700万人
(2019年推定値)
首都 : ジャカルタ
政治体制 : 大統領制、共和制
主な言語 : インドネシア語
主な宗教 : イスラム教
通貨 : ルピア



ジャカルタ



バリ島の子供たち

13,000以上の島々からなる多民族国家

ASEAN最大の人口(世界4位)と国土をもつインドネシアは、赤道に沿った13,000以上の島々からなる多民族国家です。国民の約90%がイスラム教徒で、世界で一番イスラム教徒の多い国ですが信仰は自由で、さまざまな民族や文化、宗教を尊重し、「多様性の中の統一」が特徴です。好調な内需に支えられて経済発展が目覚ましく、現在は積極的に投資誘致を進めています。

日本はインドネシアにとって最大の輸出相手国であるとともに、インドネシアは日本にとって重要なエネルギー供給国です。また、インドネシアには東南アジア屈指のリゾートアイランドであるバリ島や世界遺産ボロブドゥールをはじめとした魅力的な観光スポットがあり、日本人旅行者も多く訪れます。

1位
ASEAN加盟国における
日本語学習者数(2018年)
1位 インドネシア 706,603人
2位 タイ 184,962人
3位 ベトナム 174,461人

ASEAN諸国の中で日本語学習者が
もっとも多い国!世界的にも第2位!

参考情報:国際交流基金

ラオス人民民主共和国

Lao People's Democratic Republic



面積 : 236,800km²
人口 : 約716万人(2019年推定値)
首都 : ビエンチャン
政治体制 : 人民民主共和制
主な言語 : ラオス語
主な宗教 : 仏教
通貨 : キップ



タートルアン



朝の托鉢風景

経済改革で新たな成長を目指す

ラオスはベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国の5つの国と国境を接し、ASEAN唯一の内陸国です。日本の本州程の国土に約50の民族が暮らしており、国民の約70%が熱心な仏教徒です。メコン川が南北に流れ、水資源に恵まれた豊かな自然を擁しています。1975年以降の計画経済が行き詰まったことにより経済発展が遅れていましたが、1986年に導入された「新経済メカニズム」と呼ばれる経済

改革により、市場経済の導入と開放経済政策を進めています。主要産業は農業であり、コーヒーは重要な輸出農産品です。その一方で観光産業にも力を入れています。日本は政府開発援助事業の一環として、世界遺産に登録されているワット・プー遺跡を保護・保存するための無償協力や、橋や道路等のインフラ整備など、さまざまな経済協力を行ってきました。

1位
ラオスへのODA主要供与国
(2008年~2017年/10年間累計)*
1位 日本 30%
2位 オーストラリア 14%
3位 韓国 13%

ラオスにとって日本は最大の
政府開発援助(OA)供与国!

出典:OECD

*経済協力開発機構(OECD)の開発援助委員会(DAC)加盟国による二国間ODA総額に占める割合

マレーシア

Malaysia



面積 : 331,388km²
人口 : 約3,280万人(2019年推定値)
首都 : クアラルンプール
政治体制 : 立憲君主制(議会制民主主義)
主な言語 : マレー語、中国語、タミール語
主な宗教 : イスラム教、仏教、キリスト教
通貨 : リンギット



ペトロナス・ツインタワー



マレーシアの人々

1位
日本人のロングステイ希望国(2018年)
1位 マレーシア
2位 タイ、4位 フィリピン
8位 インドネシア
9位 シンガポール

日本人がロングステイしたい国、
13年連続第1位!

出典:ロングステイ財団

「ルック・イースト政策」は日本・マレーシア間の友好協力関係のシンボル

マレーシアは、イスラム教を中心としたマレー文化、中国文化、ヒンドゥー文化といった多様な文化が共存する多民族国家です。世界最古ともいわれるマレーシアの熱帯雨林の一部は、その多様な生態系の貴重性から世界自然遺産に登録されています。かつてはゴム、石油、錫などの輸出に依存していましたが、1970年代以降、外資の積極的な導入により工業化や技術移転を推進し、急速な経済発展を遂

げました。現在は2020年までに先進国入りを果たす「ビジョン2020」長期開発政策を推進中です。1981年に就任したマハティール首相は、アジアの先進国である日本に学ぼうという「ルック・イースト政策(東方政策)」を掲げました。マレーシアは日本への派遣留学と技術研修を積極的に実施し、両国の友好協力関係にも大きく貢献してきました。

ミャンマー連邦共和国

Republic of the Union of Myanmar



面積 : 676,576km²
人口 : 約5,302万人(2019年推定値)
首都 : ネーピードー(旧首都:ヤンゴン)
政治体制 : 大統領制、共和制
主な言語 : ミャンマー語
主な宗教 : 仏教
通貨 : チャット



バガン



タナカ・パウダーを顔に塗った少女

7倍
ミャンマーにおける日系企業
2008年 : 68社
2018年 : 452社

ミャンマーにおける日系企業数は
452社(2018年)で、10年前の
約7倍。

出典:外務省在留邦人統計(日系企業数)

民主化にともない、注目される資源と高い潜在成長力

ミャンマーは130以上の少数民族が住む多民族国家で、インド、中国、ラオス、タイと国境を接し、ベンガル湾、アンダマン海に面した肥沃な国土をもつ国です。就労人口の半分以上が農業にたずさわる農業国です。日本の約1.8倍の国土に5,000万人以上の人口と豊富な天然資源を擁することから、経済発展の潜在性が高いといわれています。1962年に始まった閉鎖的な社会主義経済政策によって国内の経済活動は低迷していましたが、

2010年に20年ぶりとなる総選挙が実施され、現在は民主化と経済発展が進み、新たな投資先として注目を集めています。また、ミャンマーはバガンの仏教遺跡、ヤンゴンの壮麗なシュエダゴン・パゴダや豊かな自然など、多くの魅力的な観光資源を擁し、今後の観光産業の成長にも期待が集まっています。日本とミャンマーの間には長期にわたる友好関係があり、さまざまなレベルでの交流が行われています。

フィリピン共和国

Republic of the Philippines



面積 : 300,000km²
人口 : 約1億831万人(2019年推定値)
首都 : マニラ
政治体制 : 立憲共和制
主な言語 : フィリピン語、英語
主な宗教 : カトリック
通貨 : ペソ



パラワン諸島北部のビーチ

「東海の真珠」と呼ばれる群島国家

11の大きな島を中心に、7,000以上の島々からなる群島国家であるフィリピンは、別名「東海の真珠」と呼ばれています。そのうち人々が暮らす島は2,000あまりで、それぞれに独自の文化や歴史、伝統的な暮らしが息づいています。ASEAN諸国で唯一のキリスト教国で、国民の約80%がカトリック教の信者です。発展を続ける首都マニラの賑わいから、青い海と白浜のビーチを独占できる無人島、緑豊かな



パンブーダンス

ジャングルまで、ユニークな旅を楽しめる観光立国です。

日本はフィリピンにとって中国やアメリカと並ぶ貿易相手国です。魚介類やバナナなど長年上位を占めてきた一次産品に代わり、近年は半導体などの加工製品の輸出が伸びています。また、看護師、介護福祉士などの人材の受け入れやサービスの自由化といった幅広い分野での二国間の経済連携を目指しています。

85%

日本が輸入するバナナの85%はフィリピンから(2018年)！

出典：財務省貿易統計

シンガポール共和国

Republic of Singapore



面積 : 720km²
人口 : 約567万人(2019年推定値)
首都 : なし(都市国家)
政治体制 : 立憲共和制
主な言語 : 英語、中国語、マレー語、タミール語
主な宗教 : 仏教、イスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教
通貨 : シンガポール・ドル



マーライオンとマリーナ・ベイ・サンズ

ASEANの経済をリードする緑豊かなガーデン・シティ

東洋と西洋の交差するマレー半島の南端のジョホール海峡に面した都市国家で、緑豊かな町並みからガーデン・シティとも呼ばれています。中国、マレー、インド、ヨーロッパなど多様な文化、言語、宗教が調和し、独自の文化を形成してきました。国土面積は東京23区程ですが、電子産業によって高度成長を遂げた後、高付加価値の製造業、金融、情報通信、バイオテクノロジーの育成に力を注ぎ、最先端のビジネスでASEAN諸国および世界



プラナカン・ビーズサンダル職人

経済を牽引しています。アジア太平洋地域の戦略的な位置にあり、卓越したインフラを備えることから金融と貿易の中心地となっています。さらに、さまざまな優遇税制措置により外資系企業を誘致し、グローバルビジネスの拠点でもあります。

2002年に締結した「日本・シンガポール新時代経済連携協定」は貿易や投資、金融、情報通信、人材育成などを含む二国間の経済連携を目指す、日本にとっては初めての経済連携協定です。

64,579

米ドル
シンガポールの1人当たり名目GDPは日本(約39,304米ドル)より高い(2018年)！ASEAN諸国の中でも最高値。

出典：IMF

タイ王国

Kingdom of Thailand



面積 : 513,140km²
人口 : 約6,791万人(2019年推定値)
首都 : バンコク
政治体制 : 立憲君主制
主な言語 : タイ語
主な宗教 : 仏教
通貨 : バーツ



ワット・プラケオ(エメラルド寺院)



水上マーケット

植民地支配を受けず独自の文化を育んできた「微笑みの国」

ASEAN諸国の中で唯一植民地にならなかったタイは、独自の文化を育んできました。国民のほとんどが仏教徒で、仏教は民族、国王とともに国家を統合する三大柱のひとつとして重要な役割を果たしています。1980年代以降、日本をはじめ、外国企業の受け入れを積極的に行い、経済発展に成功しました。ASEAN諸国の中でも屈指の観光地であるタイは、かつて「東洋のベニス」と呼ばれていた首都バンコクを

はじめ、スコタイやアユタヤなどの世界遺産、プーケットやパタヤをはじめとするビーチリゾートなど多くの観光資源を有しています。

日本とタイは、600年にわたる交流の歴史があり、伝統的に友好関係があります。近年は両国の皇室・王室間の親密な関係を基礎に、政治、経済、文化などあらゆる面で緊密な関係を築いています。

160万人以上

ASEAN諸国の中で、もっとも多くの日本人が訪問する国。2018年の日本人訪問者数は1,656,100人で、ASEAN地域に渡航した日本人全体数の約3割。

参考情報：ASEAN各国政府観光省

ベトナム社会主義共和国

Socialist Republic of Viet Nam



面積 : 331,230km²
人口 : 約9,549万人(2019年推定値)
首都 : ハノイ
政治体制 : 社会主義共和制
主な言語 : ベトナム語
主な宗教 : 仏教、カトリック
通貨 : ドン



世界遺産フエ(カイ・ディン帝廟)



民族衣装アオザイ

ドイモイという名の開放政策で飛躍、観光地として大人気

1975年にベトナム戦争が終結し、1976年に南北統一が実現して現在に至るベトナムは、約55の少数民族を擁する多民族国家です。1986年に市場経済システムを採用し、外国に対して開放化を図るドイモイ(刷新)政策を採用。西側の資本と技術を積極的に導入することにより、目覚ましい経済発展を遂げました。また、古都フエの建造物群や海のシルクロードの中継都市として栄えたホイアンをはじめ歴

史的な名所や、奇岩が海上にそそり立つハロン湾などの多彩な観光資源を有し、観光立国としての顔ももち合わせています。

南北に細長い地形が生む地域色や、中国やフランス統治時代の文化が色濃く残るベトナムは人気の観光地で、多くの日本人観光客が訪れます。16世紀には日本町が存在した歴史もあり、両国の間では政治、経済、文化など、さまざまな分野での交流が行われています。

42,083人

在日のASEAN諸国からの留学生の中では、ベトナム人留学生の数が最多！ASEAN諸国からの留学生全体数の約7割(2018年)。

※高等教育機関在籍者数 出典：日本学生支援機構

1 インドネシア:ボロブドゥール寺院遺跡群

9層からなる建物の構造に仏教の世界観を感じとる

ボロブドゥール寺院遺跡群はジャワ島中央部にある世界最大の仏教遺跡です。8世紀に造られたこと以外、誰がどのような目的で建てたかは謎のまま、神秘的なベールに包まれています。ピラミッド状の遺跡は、高さ23cmほどの安山岩のブロックを、接着剤などを使わずに何万個も積み重ねて造られています。一辺120mからなる基礎部分を含めて9層の壇が重なり、下の層は建物をぐるりと囲む長い廊下からなっています。壁面には緻密な細工のレリーフ2,500面が並び、仏教にまつわる物語が描かれています。この長い廊下をたどって頂上に至ると、72のストゥーパ(写真の釣り鐘状のもの)が整然と並び、中には仏像が安置されています。建物全体で仏教の世界観を示し、回廊を上ることに心が清められていくという造りになっています。



ボロブドゥール遺跡

2 タイ:古代都市スコータイと周辺の古都

タイの仏教文化の源にふれる王宮や寺院跡

バンコクから北に450km離れた場所に位置するスコータイ。スコータイは「幸福の夜明け」を意味する言葉で、13世紀半ば、クメール人に代わりタイ民族が初めて国を統一した王朝の遺跡です。城壁に囲まれた都の跡とその周辺には、多くの王宮跡や仏教寺院跡が立ち並んでいます。特に城壁内の中央にある寺院ワット・マハタートが有名で、先端にハスのつぼみをつけたタイ独自の仏塔がこの寺院の象徴です。巨大な柱のみ残る本堂には美しい仏像が鎮座しています。



スコータイ歴史公園 ワット・マハタート

4 ベトナム:ハロン湾

数千もの奇抜な姿の島や岩が幻想的な風景を織りなす

ベトナム北部、中国との国境近くにあるハロン湾。ハロンとは「竜が舞い降りた場所」という意味で、その名の通り幻想的で迫力ある風景が広がっています。広さ1,500km²以上ある湾内には、南国の強い雨にさらされ、長い年月をかけて奇妙な形になった大小の島々が1,600以上もあり、さまざまな奇岩が海から突き出ています。この風景が中国の桂林に似ていることから「海の桂林」とも呼ばれています。地元の人々は不思議な形をした島や岩に親しみを込めた愛称をつけています。



ハロン湾

5 フィリピン:コルディレラの棚田群

山岳の斜面に輝く「天国への階段」と呼ばれる棚田

コルディレラの棚田群はルソン島の北部、バナウエという町周辺にあるコルディレラ山脈の斜面に築かれた階段状の水田です。これは山岳民族イフガオ族が造ったもので、2,000年もの間、神聖な伝統や数々の知恵とともに受け継がれてきました。総面積は約2万ha。すべての棚田のあぜをつなぎ合わせると2万km、地球半周以上の長さになるといわれています。その美しい風景は、人間の暮らしと自然の調和から生まれ、「天国への階段」と呼ばれています。



コルディレラの棚田

Topic 1

ぜひ訪れたいASEANの絶景 ～ 文化と歴史の息吹が宿る世界遺産 ～

ASEAN地域には世界遺産に登録された数々の文化財や自然があります。ここではその41カ所(2020年1月現在)の中から代表的な9カ所を紹介します。

世界遺産とは

国連専門機関 UNESCO の総会で 1972 年に採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)をもとに登録された文化・自然遺産のことで、遺跡や景観、自然など、人類として共有すべき普遍的な価値をもつものを対象としています。日本でも最近では長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産(2018年)と百舌鳥・古市古墳群(2019年)が新たに登録され、話題となりました。

3 カンボジア:アンコール遺跡群

クメール人が美しく壮大に描いた神々の世界

カンボジアの北西部、密林の奥深く、トンレサップ湖畔に壮大な姿でたたずんでいるのがアンコール遺跡群です。9～15世紀にかけて、クメール人のアンコール王朝により建てられた宗教建築で、約400km²にわたり大小700もの寺院や祠、池や橋などが広がっています。規模の大きさ、調和のとれた美しさでもっとも有名なアンコール・ワットは、ヒンドゥー教のヴィシュヌ神がまつられ、神々と交信する場所として建てられました。そのほか高さ8mの城壁に周囲12kmを囲まれた巨大な都市跡、アンコール・トム、女神のレリーフが見事なバンテアイ・スレイなどが神々の世界へとつながってくれます。



アンコール・ワット

8 シンガポール:シンガポール植物園

近代産業の発展に貢献した大都会のオアシス

シンガポール植物園はシンガポールの中心に位置し、1859年の開園以降、同国の科学、研究、植物保全などの活動に重要な役割を担ってきました。特に同園で1800年代後半から始められたゴムの研究は、東南アジアにゴム市場の一大拠点を築き、同じく同園で改良されたランは、シンガポールの重要な輸出品となりました。現在では市民の憩いの場として、またシンガポール随一の観光名所として親しまれています。植民地時代から国の発展を支えた施設としてその価値が認められ、2015年にはシンガポールでは初めて、UNESCOの世界遺産に登録されました。



ボタニック・ガーデン

9 ミャンマー:バガン

2,000以上の寺院や仏塔が林立する世界最大級の仏教遺跡

ミャンマーの中央平野を流れるエーヤワディ川中流域の約40km²の広大な平原に広がるバガンは、世界最大級の仏教の聖地です。敷地内には、大小さまざまな寺院、仏塔、巡礼場所、そして考古学上重要な遺跡、壁画、彫刻が数多くあります。バガンは、かつて地域一帯を治めたミャンマー最初の統一王朝の都であり、王朝最盛期(11～13世紀)の隆盛を現代に伝えています。調和のとれた壮大な建造物群から、初期の仏教帝国の信仰の深さがうかがえます。



バガン

ASEAN諸国の無形文化遺産

遺跡・建造物・景観・自然などの有形の世界遺産と同様に、ASEAN諸国には UNESCOによって登録・保護された、慣習や儀式、技術、知識など、実体のないものを対象とする無形文化遺産が数多くあります。その中にはカンボジアのスパエクトム(クメールの影絵劇)、インドネシアのパティック(ろうけつ染め)、マレーシアのマヨン(マレー半島東海岸の伝統舞踊劇)、フィリピンのイフガオ族の歌ハドハド、ベトナムの宮廷音楽ニャ・ニャック等が含まれ、今もその伝統が受け継がれています。



インドネシアのパティック



カンボジアの影絵劇

ブルネイ:アンブヤ

サゴヤシの澱粉で作るボルネオ島の伝統食

ボルネオ島北部で食されてきた、ブルネイの伝統料理が『アンブヤ』です。椰子の一種であるサゴヤシの樹液からサゴ粉を作り、熱湯を注いで混ぜると水アメのような状態になります。それを特製のお箸で巻き取り、魚や野菜のおかず、エビのペーストやドリアンソースなどと一緒に食べるのが一般的です。



カンボジア:アモックとブラホック

さかんな漁業を背景に愛されている魚料理

メコン川やトンレサップ湖での漁業がさかんなことから、カンボジアでは魚料理がよく食べられます。『アモック』はカレーで風味をつけたココナツミルクで白身魚を蒸した料理。主食であるお米と一緒にいただきます。また、塩漬の小魚を発酵させた『ブラホック』は、日本における醤油と同様、カンボジアの食に欠かせない調味料です。



マレーシア:ナシゴレン、デ・タレ

マレー、中国、インドが融合した独自の食文化

マレー風炒飯『ナシゴレン』と焼きそば『ミーゴレン』は、インドネシアやブルネイなどマレー文化圏で広く愛される料理。どちらもオイスターソースと唐辛子などの薬味で炒めたピリ辛味が特徴です。またマレーシアをはじめシンガポールなど、インド系移民が多い地域で愛される紅茶が『デ・タレ』。コンデンスミルク入りの紅茶を2つのカップに何度も移し替え、高い位置から注いで泡立てる鮮やかなお茶の入れ方は、競技会も実施されるほど人気を集めています。



ミャンマー:モヒンガー

ミャンマーの国民食、ナマズスープの汁麺

朝ごはんには麺類を食べる習慣があるミャンマーで、街中のいたるところで食べられるのが米麺『モヒンガー』。ナマズでだしをとったスープに米麺を入れ、豆やお米の粉、バナナの茎、ゆで卵、かき揚げなどをのせます。日本の麺類のようにすすって食べるのではなく、レンゲで麺を切りながら短くして口に運ぶのがミャンマー式です。



インドネシア:パダン料理

ずらり並んだ小皿を選ぶ自由な食べ方が特徴

西スマトラ州の『パダン料理』は、インドネシア国内のあちこちにレストランがある人気の料理です。席に着くと、小皿に盛った料理がずらりと並べられ、食べた分だけ料金を支払います。素材は魚・エビ・ヤギ肉・チキンなどさまざま、ココナツや唐辛子、スパイスと一緒に煮込みます。白米と一緒に食べるのが主流です。



フィリピン:ハロハロ

フルーツ王国フィリピンのかき氷デザート

温暖で雨が多いフィリピンはフルーツの栽培に適した土地。"混ぜこぜ"という意味をもつ『ハロハロ』は、ナタデココをのせたかき氷にシロップをかけ、さらにウベ(紫芋)のアイスクリームやフルーツをトッピングしたスイーツ。その名の通り、かき混ぜながら食べ、最後にはジュースのように飲むこともできる、現地ではポピュラーなおやつです。



シンガポール:海南風チキンライス

華僑がもたらした、東南アジアのローカルフード

中国語で"海南鶏飯"と記される『海南風チキンライス』。もともと中国の海南島出身の華僑が伝えたのがきっかけで、シンガポールをはじめ東南アジア各地に庶民の味として広がり、各国で独自の進化を遂げました。鶏肉のゆで汁で炊いたごはんの上に、ゆでたりローストした鶏肉をのせたシンプルな料理で、現地ではスープや野菜と一緒に食べられています。



ラオス:ラープ

海のない国ならではのハーブを利かせたお肉料理

海に面していないラオスでは、農作物と家畜の肉が食事の中心を担います。『ラープ』は、細かく刻んだ鳥や豚、アヒルなどの肉を炒め、レモングラスやバクチーなどの香草や唐辛子と和える料理。ラオスの人々は蒸したもち米、カオニャオを指先で一口分に軽く丸め、ラープを添えて食べます。



タイ:トムヤムクン

エビの旨みがたっぷり、酸っぱくて辛いスープ

世界三大スープのひとつとされる『トムヤムクン』は、タイ料理の中でも有名なメニュー。トム=煮る、ヤム=和える、クン=エビと、料理の工程と食材がそのまま名前の由来になっています。レモングラスなどの香草、タマリンドや唐辛子などで味付けした独特の酸っぱくて辛い風味は、一度食べたら忘れられない個性的な味です。



ベトナム:バインミー

街中で気軽に食べられるベトナム風サンドイッチ

フランス植民地時代の影響から、ベトナムではフランスパンが日常的に食べられています。『バインミー』はフランスパンにさまざまな具をはさんだベトナム風のサンドイッチ。街にはバインミーの屋台がたくさんあり、目の前で焼いた目玉焼きやお肉をパンにはさみ、香草やシーズニングソースをかけて手渡してくれる、庶民の軽食として愛されています。



Topic 2

おいしいASEAN

～豊かな風土が育む多彩な食文化～

ASEAN諸国で愛されている、個性豊かでおいしいフードやドリンク。そこには、それぞれの国が育んできた多種多様な文化がかいま見ることができます。

ASEAN諸国とスパイス、ハーブ

ASEAN諸国では、多くのスパイスやハーブが料理に使われているのに気がついたでしょうか？その大きな理由が、東南アジア地域の厳しい暑さ。スパイスを利かせた料理には発汗作用があるため、汗が蒸発する時に体温を奪い、涼しくなるのです。またスパイスやハーブの独特の香りや辛みには食欲を高める効果もあるので、暑い気候でも食欲を落とさず、体力を消耗しない工夫であるともいえます。古くから医薬としても使われていた通り、スパイスやハーブには食材の腐敗を防いだり、消化を助けたり、解毒作用があったりと、さまざまな効能があります。スパイスやハーブはASEAN諸国に住む人たちが健康に過ごすため、欠かせないのであるのです。



Topic 3

ASEANの トラディショナルスタイル ～ ASEANの華麗なる民族衣装 ～

ASEAN諸国には
それぞれ伝統的かつ個性豊かな民族衣装があります。
同じ国でも民族によって衣装は異なりますが、
ここでは代表的なものを紹介します。

巻きスカートがASEAN諸国で愛される理由

ASEAN地域では、男女を問わず巻きスカートが愛用されている国がたくさんあります。長方形の布を巻きつけて着たり、あらかじめ筒状に縫った布を帯などで留めたりと、国により着方やスタイルは多少異なりますが、「一枚布の衣服」とであるという点は共通しています。というのも、一年を通じて気温と湿度が高い熱帯地方では、日本のように衣類を重ね着する必要がありません。また、一日に何度も水浴びをする習慣もあるため、脱ぎ着が簡単で、洗濯しやすくすぐ乾き、さらに作るのも簡単である実用性と相まって、巻きスカート文化につながっていったのです。

ブルネイ

【女性】バジュ・クロン 【男性】チャラ・メラユ

人口の約8割を占めるマレー系ブルネイ人の正装



マレー系ブルネイ人にはイスラム教徒が多いため、女性は全身をすっぽり覆い隠すツーピース『バジュ・クロン』を着用し、『トゥドン』というスカーフで髪を隠します。男性は『チャラ・メラユ』という丈の長い長袖シャツとズボンの上に、腰巻『シンジャン』を身につけます。



カンボジア

【女性・男性】サンボット

パンツ兼スカートでもあるクメール人の民族衣装



アンコール王朝を築いたクメール人の民族衣装が、絹の緋でできた『サンボット』です。女性は主に巻きスカートとして身につけますが、男性は銀の飾りで布を留め、ズボンのような装いで着用するのが伝統のスタイルです。トップスにはブラウスやシャツを合わせます。



インドネシア

【女性】クバヤ 【男性】ブスカップ

礼拝や公の場で着る伝統衣装



ジャワ人、スンダ族やバリ人女性の正装『クバヤ』は、レースやオーガンジー等を用いた丈の長いブラウスの一種。ジャワ人男性は『ブスカップ』と呼ばれるジャケットを身につけます。男女ともボトムにはパティックの筒状布『サロン』を合わせます。男性はパティックシャツにズボンというスタイルも一般的です。



ラオス

【女性】シン 【男性】サロン

普段着にも正装にも使われる民族衣装



『シン』と『サロン』は、どちらも筒状の布でできています。普段着としては木綿が好まれますが、結婚式など儀礼の時は絹を選ぶのが正式です。女性は『シン』にブラウス、男性は『サロン』にジャケット、さらに『パーピアン』という斜めがけショールを合わせるのが基本の組み合わせです。



マレーシア

【女性】バジュ・クロン 【男性】バジュ・メラユ

国民の約6割を占めるイスラム教徒の正装



マレーシアのイスラム教徒の衣装は、男女ともブルネイのマレー系国民とほとんど変わりません。男性のバジュ・メラユに巻きつける丈の短い腰巻きは『サンピン』といいます。また、男性がかぶる帽子『ソンコ』には黒と白があり、聖地メッカの巡礼を済ませたイスラム教徒だけが白いソンコを身につけることができます。



ミャンマー

【女性・男性】ロンジー

筒状の巻き布を使ったミャンマー人の国民的衣装



男女共通の衣装が筒状布のスカート『ロンジー』。男性は体の正面で、女性は左右にずらして結ぶのが特徴です。正装の時は絹の『ロンジー』に伝統的な上着である『エンジー』を合わせ、女性はそこからレースのベールを羽織り、男性は『ガウンバウン』という帽子をかぶります。



フィリピン

【女性】テルノ 【男性】バロン・タガログ

スペイン統治の影響を受けたフィリピン人の正装



約400年間、スペインの植民地だったことから衣装にもその影響が表れています。女性の正装『テルノ』は、張り出したバタフライ・スリーブが特徴的。男性の正装『バロン・タガログ』はバイナッフルなどの繊維で作った薄手の生地を使用し、前面に刺繍が施されています。



シンガポール

【女性・男性】チョンサム

国民の7割以上を占める中華系シンガポール人の伝統衣装



満州人の民族衣装が原型とされる『チョンサム』は、高い襟とサイドスリットが特徴です。光沢のある絹や刺繍入りのサテンなど、繊細で華やかな生地がよく用いられます。男性は主に儀礼の時だけ身につけますが、女性はドレスの一種としてパーティなど幅広い場面で着用しています。



タイ

【女性】シーワライ 【男性】スア・プララーチャターン

微笑みの国タイのナショナル・コスチューム



タイ女性の正装である『シーワライ』は、長方形の布を胸に巻いて着るトップス『サバイ』と『パ・ヌン』と呼ばれる筒状のスカートで構成されます。男性の正装は『スア・プララーチャターン』というジャケットで、1977年にプミポン国王(当時)がデザインを決めて着用を推奨し、一般に広まりました。



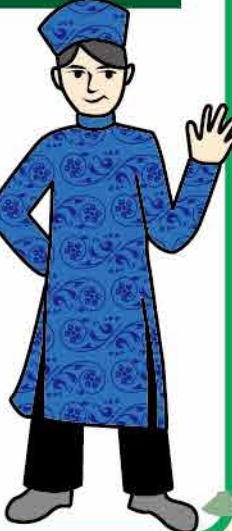
ベトナム

【女性・男性】アオザイ

中国から伝わったベトナム人の正装



「長い着物」という意味をもつ『アオザイ』は、18世紀に伝えられた中国服が起源です。男女用とも両脇に入ったスリットが特徴で、『クワン』というゆったりしたズボンと合わせて着るのが一般的です。女性は普段着としてもアオザイを身につけますが、男性は結婚式など式典の時に着ます。





日本アセアンセンターの設立と目的

日本アセアンセンターは、1977年に福田赳夫総理(当時)が、フィリピン・マニラで表明した東南アジア外交3原則「福田ドクトリン」を受けて、1981年5月25日に当時のASEAN加盟国(原加盟国:インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)政府および日本政府が協定に署名し、設立した国際機関です。後にブルネイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーも加盟し、現在はASEAN全10カ国と日本がセンターのメンバー国となっています。

日本アセアンセンターの正式名称は「東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター」といい、設立以来長年にわたり、ASEAN諸国から日本への輸出の促進、日本からASEAN諸国への直接投資の促進、日本からASEAN諸国への観光の促進を目的に事業を実施してきました。近年では、日本とASEAN諸国を取り巻く経済状況や人の往来の変化を踏まえ、加盟国の要請に応じてセンターの活動目的が改訂され、投資および観光分野におけるASEAN諸国から日本への促進および人物交流の促進事業が、センターの新たな活動として加わりました。

現在、センターは貿易、投資、観光および人物交流の4つの分野での日本とASEAN諸国のパートナーシップを強化するために、各種セミナー・ワークショップの開催、研究調査、人材育成、文化紹介イベント、各種資料の発行および情報提供など、多岐にわたる事業を実施しています。

ASEAN事務局と日本アセアンセンター

日本アセアンセンターは、ASEAN事務局とは異なる独立した国際機関です。ASEAN事務局は1976年のASEAN首脳会議で設置が決定され、ASEANの各種会議や事業の事務局を担い、ジャカルタ(インドネシア)に所在します。センターはASEAN事務局と幅広い分野において協力関係を築いています。また、ASEAN各国とも本国政府、駐日ASEAN大使館、各国政府貿易・投資・観光関連機関を通じて密接な連携を保ちながら、事業を実施しています。

総合インフォメーションコーナーとアセアンホール

ASEANを知り、ASEANにふれられる場所

東京・新橋にある日本アセアンセンターでは、資料コーナー(総合インフォメーションコーナー)を設置しており、ASEAN諸国の貿易・投資・観光・文化に関する書籍や現地で入手した資料、観光ガイドなどを自由に閲覧していただけます。ASEANの最新情報をお届けする場所として、ビジネスパーソンをはじめ、学生から一般の方まで幅広い方々にご利用いただいています。

また、センターには多目的ホール「アセアンホール」も併設されており、各種経済セミナーなどのビジネス関連イベントのほか、写真展や美術展、ASEAN諸国の文化を体験するワークショップなどの文化イベント、国際交流イベントなどASEANに関わるさまざまなイベントを開催しています。アセアンホールは、ASEAN諸国の経済促進ならびに日本とASEANとの関係促進を目的とした非営利のイベントを対象に、貸し出しも行っています。



貿易促進事業

ASEAN諸国から日本への輸出促進

ASEAN各国の輸出促進に重要な産業分野や新たな貿易形態について、各国への政策提言を念頭に、研究調査事業を行っています。また、特にASEAN諸国のクリエイティブ産業の振興、域内格差是正、ならびに中小企業の生産輸出能力強化を目的に、現地の輸出業者を対象とした人材育成事業を、専門家と協力して実施しています。その他、貿易関連のイベント情報やASEAN諸国の輸出企業に関する情報も提供しています。



ASEAN諸国のサービス貿易の促進に関する政策提言書



ASEAN諸国の輸出企業に対する人材育成事業：繊維製品ワークショップ



投資促進事業

日本とASEAN諸国間の直接投資の促進

日本からASEAN諸国への直接投資を促進するため、各国の投資環境や優遇措置に加え、ASEAN地域全体ならびにサブ地域の経済やASEAN諸国でのビジネスにおける注目トピックについて、説明会の実施、ホームページ、ならびに出版物の発行を通し、最新情報を提供しています。また、ASEAN諸国と日本の政府関係者およびビジネス関係者が、各国の投資政策改善を模索するための対話の機会を提供しています。



ASEAN経済共同体をテーマにしたシンポジウム



ASEAN諸国の投資当局者を対象とした日本の産業や地方自治体視察



観光促進事業

日本とASEAN諸国間の観光促進

日本からASEAN諸国への観光促進を目的に、ASEAN諸国の観光従事者向けの人材育成事業を「持続可能な観光」をテーマに実施しています。また、観光イベントへの出展やASEAN諸国の魅力を紹介するセミナー等を開催しています。さらに、観光がASEAN域内の開発格差是正に貢献することを念頭にASEAN地域の後発4カ国であるCLMV(カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム)の観光促進事業に注力しています。



ASEAN諸国の観光従事者に対する人材育成事業：アグリツーリズム・ワークショップ



観光イベントへの参加



人物交流促進事業

日本とASEAN諸国との人物交流の拡充

日本とASEAN諸国間で増加する人の往来を背景に、双方の人の交流をさらに深化させるため、さまざまなレベルでの交流の機会を提供しています。近年ではASEAN諸国および日本の女性起業家にビジネスチャンスとネットワークを広げるための交流の場を提供しています。また、子供を対象にしたASEAN諸国の文化紹介イベントや、小学校での特別授業も行っています。



ASEAN日本女性起業家交流事業



小学校での特別事業

総合インフォメーションコーナー



入場無料

開館時間
9時30分～17時30分
土・日・祝日は休館

アセアンホール

